

## 令和7年6月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

令和6年10月30日

上場会社名 アトムリビントック株式会社  
 コード番号 3426 URL <https://www.atomlt.com/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 高橋 快一郎  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経理部長 (氏名) 安田 晃章 TEL 03-3876-0607  
 配当支払開始予定日 —  
 決算補足説明資料作成の有無：無  
 決算説明会開催の有無：無

上場取引所 東

(百万円未満切捨て)

### 1. 令和7年6月期第1四半期の業績（令和6年7月1日～令和6年9月30日）

#### (1) 経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
7年6月期第1四半期	2,416	△0.9	91	22.5	97	16.0	68	37.9
6年6月期第1四半期	2,439	△1.9	74	5.9	83	6.6	49	△41.9

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
7年6月期第1四半期	17.17	—
6年6月期第1四半期	12.45	—

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
7年6月期第1四半期	13,251	10,142	76.5
6年6月期	13,187	10,150	77.0

(参考) 自己資本 7年6月期第1四半期 10,142百万円 6年6月期 10,150百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
6年6月期	—	17.50	—	17.50	35.00
7年6月期	—	—	—	—	—
7年6月期(予想)	—	17.50	—	15.00	32.50

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

6年6月期 第2四半期末配当金の内訳 普通配当15円00銭 記念配当2円50銭  
 6年6月期 期末配当金の内訳 普通配当15円00銭 記念配当2円50銭  
 7年6月期(予想) 第2四半期末配当金の内訳 普通配当15円00銭 記念配当2円50銭

### 3. 令和7年6月期の業績予想（令和6年7月1日～令和7年6月30日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	5,300	0.3	210	△7.7	230	△6.4	150	△3.4	37.60
通期	10,550	3.8	330	△1.0	360	△3.2	240	△5.8	60.15

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	7年6月期1Q	4,105,000株	6年6月期	4,105,000株
② 期末自己株式数	7年6月期1Q	115,243株	6年6月期	115,243株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	7年6月期1Q	3,989,757株	6年6月期1Q	3,989,800株

※ 添付される四半期財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 経営成績等の概況（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当四半期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当四半期の財政状態の概況 .....	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	7
(セグメント情報等の注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(四半期キャッシュ・フロー計算書に関する注記) .....	7

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当四半期の経営成績の概況

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、政府の推進する積極的な経済対策や日銀の緩和的な金融環境の維持を背景に、社会的・経済的活動の正常化に向けた動きが続いたことに加え、雇用・所得環境が改善傾向を示し、またインバウンド需要が復調したことなどによって、景気は緩やかな回復基調で推移したものの、少子高齢化社会の進展による人手不足の深刻化が危惧される状況が継続、さらには国際社会の分断の深まりによる地政学リスクの高まりや、欧米における金融市場・政策運営をめぐる懸念が高まるなど、不確実な世界情勢に伴う国内外経済の下振れリスクが残存し、景気の先行きに対する不透明感は、依然として払拭できない状況の下で推移いたしました。

当社の関連する住宅市場におきましては、低水準にある住宅ローン金利や住宅ローン減税の導入、省エネ住宅への補助金制度など、政府による各種住宅取得支援政策が下支えしたものの、建築資材の原材料コストや製造・輸送に係るエネルギーコストが上昇したことによって住宅取得マインドは低下し、新設住宅着工戸数の利用関係別では、持家と分譲住宅を中心に低迷する状況が続きました。また建設業界における慢性的な人工不足に加え、物流の2024年問題の影響が懸念されるなど、住宅業界を取り巻く環境は依然として先行き不透明感が拭えず、本格的な市場の回復には未だ至らない水準で推移いたしました。

このような状況の下、今期を初年度とする「第12次中期経営計画(第71期～第73期)」において掲げた「伝統を活かし、変革に挑む」との企業スピリットに従い、創業以来、121年の社歴で培ってきた特長的な事業スタイルを有効に活用できる原動力(人材)を確保するため、全社的な連携体制の強化と環境を整備し、社員一人ひとりが責任と自覚を持って積極的に行動することによって、未来を切り開いていくことのできる“突破力”を備えた発想豊かな人材の育成に努めたことに加え、当社の情報発信基地としての性格を持つアトムCSタワーでは、生活者の価値観・ライフスタイルの多様化が進む中、新しい時代の流れ・新しいテーマに向けた事業展開を推進するとともに、新たな商品展開の周知と販路の開拓に繋げる取り組みを進めて参りました。併せて販売費及び一般管理費の圧縮など、調整かつ管理可能な諸施策を講じて、困難な市場環境に対応し得る営業体制とこれを支える管理体制の強化を図るべく、当面する各々の課題に取り組んで参りました結果、当第1四半期累計期間の業績は売上高2,416百万円(前年同期比0.9%減)、営業利益91百万円(前年同期比22.5%増)、経常利益97百万円(前年同期比16.0%増)、四半期純利益68百万円(前年同期比37.9%増)となりました。

### (2) 当四半期の財政状態の概況

当第1四半期会計期間末の資産総額は13,251百万円となり、前事業年度末に比べ64百万円の増加となりました。主な内容は、受取手形及び売掛金が114百万円、有価証券(譲渡性預金)が3,100百万円減少しましたが、現金及び預金が3,027百万円、商品が100百万円、無形固定資産が62百万円、投資有価証券が92百万円それぞれ増加したこと等によるものです。

負債につきましては3,109百万円となり、前事業年度末に比べ71百万円の増加となりました。主な内容は、未払法人税等が70百万円減少しましたが、支払手形及び買掛金が53百万円、賞与引当金が56百万円それぞれ増加したこと等によるものです。

純資産につきましては10,142百万円となり、前事業年度末に比べ7百万円の減少となりました。主な内容は、当第1四半期累計期間における四半期純利益で68百万円増加しましたが、配当金支払で69百万円減少したこと等によるものです。

## (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の見通しにつきましては、前述した社会・経済環境の下で予断を許さない不透明な状況が続くものと思われ、当社の関連する住宅市場におきましても、少子高齢化による世帯数の減少や住宅の性能向上による高耐久・長寿命化などの構造的な要因を背景に、新設住宅着工戸数は中長期的に縮小傾向で推移するものと予想されます。一方、カーボンニュートラル実現に向けた省エネ化への進展も相まって、住宅業界では量から質への転換期を迎えており、既存住宅の利用価値の向上や住み替え需要の促進効果に加え、コロナ禍でニーズが高まった室内環境の向上要求や生活スタイルの意識変化による住環境の見直し需要など、サステナブルな社会の実現に向けて、一定の市場の活性化が期待されるものの、新設住宅着工戸数の動向については、消費性向及び所得環境の改善がさらに拡大浸透しなければ、本格的な市場の回復には至らない状況にあるものと思われま

す。このような状況の下、当社は引き続き住宅関連市場に関わる各種テーマを深掘りしつつ、創業以来の思い「独り歩きのできる商品を提供する」を全うし、併せて今期を初年度とする第12次中期経営計画で掲げた基本方針「持続的成長に向けた新たな付加価値の創出」に従い、新たな成長基盤の構築に向けて、住宅関連産業のみならず、非住宅分野（店舗・病院・教育・ホテル・介護福祉施設など）への積極的参入や東南アジア市場における新たなフレームワークの構築を推進するとともに、住宅産業における企画開発型企業として、当社独自の開発商品を世に問うことこそ使命とした「ものづくり」の原点に立ち返り、本来、当社が取り扱うべき商品の裾野拡大と高収益型企業への回帰を実現すべく事業展開を図りつつ、将来を見据えた各種投資の活性化を推進して、鋭意、企業の社会的責任を果たして参ります。

また、本年10月開催の「秋の内覧会・大阪展」を中核として、第2四半期冒頭より、一層の商品開発の充実に努め、既存事業と新規事業の相乗効果を創出する「住空間創造企業」としての独自性をさらに追究するとともに、経営環境の変動に左右されにくい事業基盤の確立を全社一丸となって目指して参ります。一方、現地生産の強化と東南アジア市場での販売を目的として設立した子会社「ATOM LIVIN TECH VIETNAM COMPANY LIMITED（ベトナム・ホーチミン市）」においては、海外協力工場の開拓、現地販売ならびに日本国内への商品供給の拡大に注力し、所期の目的を果たして参る所存であります。

当社は昨年10月に創業120周年、本年1月にアトムブランド誕生70周年を迎え、さらに本年10月には株式会社へと法人改組して70周年を迎えます。この相次ぎ迎える記念すべき節目の年度を機に、創業以来培ってきた歴史と伝統を礎として、将来に向けて新たな一歩を踏み出すという意を込めて、企業ロゴ「ATOM LIVINTECH」を刷新し、本年1月より運用を開始しております。

なお、第2四半期累計期間及び通期の業績見通しにつきましては、現時点において令和6年8月5日公表の「令和7年6月期の業績予想」に変更はございません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (令和6年6月30日)	当第1四半期会計期間 (令和6年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,014,608	5,042,309
受取手形及び売掛金	1,845,812	1,731,339
電子記録債権	531,664	537,480
有価証券	3,100,000	—
商品	464,345	564,892
その他	62,325	60,865
貸倒引当金	△713	△680
流動資産合計	8,018,043	7,936,207
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	1,017,624	1,006,544
工具、器具及び備品（純額）	98,483	93,076
土地	1,161,285	1,161,285
その他（純額）	120,867	123,333
有形固定資産合計	2,398,261	2,384,239
無形固定資産	100,028	162,274
投資その他の資産		
投資有価証券	2,542,839	2,635,350
その他	154,240	156,535
貸倒引当金	△25,859	△22,727
投資その他の資産合計	2,671,220	2,769,157
固定資産合計	5,169,510	5,315,672
資産合計	13,187,554	13,251,880

(単位：千円)

	前事業年度 (令和6年6月30日)	当第1四半期会計期間 (令和6年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	624,518	678,134
電子記録債務	1,857,713	1,863,562
未払法人税等	107,899	37,233
賞与引当金	—	56,287
その他	224,656	265,997
流動負債合計	2,814,787	2,901,214
固定負債		
退職給付引当金	142,798	133,154
役員退職慰労引当金	52,750	43,875
その他	26,800	30,800
固定負債合計	222,348	207,829
負債合計	3,037,136	3,109,043
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	300,745	300,745
資本剰余金	273,245	273,245
利益剰余金	9,621,788	9,620,466
自己株式	△64,643	△64,643
株主資本合計	10,131,135	10,129,812
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	19,282	13,023
評価・換算差額等合計	19,282	13,023
純資産合計	10,150,417	10,142,836
負債純資産合計	13,187,554	13,251,880

(2) 四半期損益計算書  
(第1四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自 令和5年7月1日 至 令和5年9月30日)	当第1四半期累計期間 (自 令和6年7月1日 至 令和6年9月30日)
売上高	2,439,148	2,416,494
売上原価	1,830,059	1,781,475
売上総利益	609,088	635,018
販売費及び一般管理費	534,567	543,737
営業利益	74,520	91,281
営業外収益		
受取利息	5,625	7,280
仕入割引	1,523	1,335
為替差益	1,877	—
貸倒引当金戻入額	—	3,132
その他	907	295
営業外収益合計	9,934	12,043
営業外費用		
為替差損	—	5,081
雑損失	508	833
営業外費用合計	508	5,915
経常利益	83,946	97,410
特別利益	—	—
特別損失	—	—
税引前四半期純利益	83,946	97,410
法人税、住民税及び事業税	52,115	33,303
法人税等調整額	△17,848	△4,391
法人税等合計	34,266	28,911
四半期純利益	49,680	68,498



(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

当社は、住宅用内装金物事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第1四半期累計期間 (自 令和5年7月1日 至 令和5年9月30日)	当第1四半期累計期間 (自 令和6年7月1日 至 令和6年9月30日)
減価償却費	35,841千円	36,599千円